

H26年9月18日

市川の歴史

第2号

発行：八戸市立市川中学校地域学校連携協議会

校長：馬渡教二 会長：小向龍悦

くに し せき ちようしち や ち かいづか 国史跡：「長七谷地貝塚」



桔梗野工業団地(旧 市川町字長七谷地及び吹上)にある長七谷地貝塚は、縄文時代早期の貝塚及び集落遺跡です。ここには海水産のハマグリや汽水(海水と淡水が混じり合った低塩分の水)産のヤマトシジミなど貝類の堆積が見られる小さな貝塚群が広がっており、当時の漁撈活動や食料事情を今に伝える重要な遺跡です。

この遺跡は、昭和32年(1957)に近くの小中学生によって発見され、(お名前をわかる方はありませんか?)翌年には慶応義塾大学による発掘調査が行われて全国的に知られることとなりました。桔梗野工業団地造成計画が本格化した昭和48年(1973)には、青森県教育委員会の指導のもと、地元の研究者・市川中の生徒・高校生・八戸市教育委員会の職員等、総勢133名により分布調査が実施されました。



昭和52年(1977)からは発掘調査が大規模に行われ、数地点で貝の層を確認しました。また、竪穴住居跡36棟等も発見しました。出土遺物は、貝類を主体に魚や鳥の骨・釣り針・鈎・縫い針等、多様です。土器は縄文時代早期中ごろから前期初め(8~6千年前)のものも見られますが、早期後半(約7千年前)では、底のとがった土器(尖底土器)が主体をなしています。(左の写真参照) 貝塚の様子や出土品は、八戸市博物館に収蔵・展示されています。

長七谷地貝塚は、青森市にある三内丸山遺跡よりも2千年以上前の縄文時代早期後半の数少ない貝塚であり、当時の生活や自然環境等を知る上で貴重な貝塚であるとして昭和56年(1981)5月25日、**国史跡に指定**されました。また長七谷地貝塚は、青森県をはじめとして4つの道県が世界文化遺産登録を目指している「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の一つになっています。

尚、市川地域には長七谷地のほかに古場蔵・南大谷地・和野前山・市川長者久保・水目沢・稻荷後・高屋敷・北雷平等16箇所の遺跡が確認されています。

※ 八戸市内の国史跡は、長七谷地・是川・根城・丹後平(白山台)の4箇所です。

八戸市立市川中学校地域学校連携協議会教育コーディネーター：木村 隆一

参考資料：「新編八戸市史・考古資料編」「新編八戸市史・地誌編」ほか

